

名古屋市立大学の「今」を伝える広報誌



特集

これまで発行してきた「創 新」 本誌でvol.50を迎えます(→P1)

**特集①** **創 新vol.50記念企画** 大学の仕事にも物語が—

## 今、振り返る広報誌「創 新」の足跡

**特集②** **2年連続！名市大病院が初期研修でフルマッチを達成！**

**特集③** **2連覇達成！日本経済新聞の地域貢献度ランキングで  
全国トップの評価！**

01 特集

04 NCU TRY!!

05 TOPICS

08 国際交流

09 学生の活躍

10 受賞関連

11 イベントカレンダー／寄附顕彰

DONATION

あなたの力が支えます

## ご寄附のお願い

名古屋市立大学では、高いレベルの教育、研究、医療などの活動を展開し、市民に開かれた大学づくりを実践していくために、寄附金を募集しております。

問合せ：総務部 総務課

tel.052-853-8005

## 「創新vol.50記念企画」大学の仕事にも物語が— 今、振り返る広報誌「創新」の足跡

本学の大学広報誌「創新」は、名市大の「今」を伝える広報誌として皆さまに支えられて発行を続け、本誌をもってvol.50を迎えました。

そこで、これまでの「創新」発行の歩みを振り返る記念特集を企画しました。

創新制作の裏側を通じて、本学に一層関心を持っていただければ幸いです。

### 「創新」の歴史にまつわる担当者取材記

現在の「創新」制作担当者が、創刊当時に制作に携わった職員から話を聞き、その歴史を取材記としてまとめました。

「当時は試行錯誤の連続で、何が求められているのかも手探りの状態だった」とは、苦笑いの労務課・辻係長の言葉。「一眼レフカメラを首から提げて、とにかく学内をパタパタ走り回っていました(笑)」と笑顔で話す財務課・西澤さん。二人は、創新の創刊当初に広報を担当した職員です。当時の苦労や広報誌の発行という仕事に対する向き合い方を取材しました。

#### ➤ 広報誌のヒストリー

「創新」創刊以前、本学では「AGORA(アゴラ)」という広報誌が発行されていました。本学が「公立大学法人名古屋市立大学」として法人化した2006年の7月にNo.1が創刊され、研究・教育を始めとするさまざまな大学の活動を発信する学外向け広報誌として2010年10月のNo.18まで発行されました。

そんな中、大学内では広報方針について検討がなされ、大きな転換期を迎えます。これまで主に学外に向けて発行していた広報誌を、学内の教職員に向けたものとして作り変えるというものです。辻係長によると当時学内では、「インナーブランディングの必要性が高まっていた」と言います。「インナーブランディング」とは同じ組織内の職員に対して大学のブランドやビジョンを浸透させていく活動のこと。個々の職員と大学の目指す方向性を一致させることで、全体の成長につなげようという考えです。大学という同じ組織の中で働いていても、携わる業務は教育、研究、地域貢献、医療などさまざま。

部署によっては、大学全体の動きが伝わりにくいところもあり、まずは、働いている人たち自身に大学のことを知ってほしい、好きになってほしいという思いが学内に向けた新たな広報誌誕生のきっかけだったと言います。



広報誌「AGORA」

#### ➤ 「創新」の誕生と由来

2010年、新たな広報誌創刊のプロジェクトが始まりました。広報誌のタイトル「創新」は、当時の戸苅学長が掲げるスローガン「温故創新: 故(ふる)きを温(たず)ねて新(あたらし)きを創(つく)る」が由来となっています。創刊準備号として2010年7月に発行された紙面の中では、「先達の叢智を十分に学んだ上で、絶えず新しいことに挑戦していく大学に変わります」として、温故創新の精神とともにこれからの名市大の発展を宣言されています。

新たに始まったプロジェクトでしたが、当時の二人は広報誌制作など素人同然。何から始めてよいかも分からなかったと言います。それでも、「皆が知りたがっていることは何か」「少しでも皆の仕事に役に立つ情報を」と記事のアイデアを絞り、デザイン会社の協力を得ながら苦労の末に2011年5月、なんとか創刊号を発行することができました。

ですが話によると、最初から学内の理解が得られたわけではなかったよう。学内向けの冊子に、デザインを気にしたり、カラー印刷をしたりする必要があるのか、という厳しい声も聞こえてきたとのこと。しかし、そんな逆境の中でも「皆に求められるものを作りたい」という思いで発行を続け、その結果として徐々に「創新」は学内で認知されていきました。

そして2013年春のvol.13からは、学内外の皆さまにも広く魅力を伝えるための大学広報誌として現在のデザインに。進化を遂げながら「創新」の歴史は今に引き継がれています。



#### 「取材記」あとがき

今では、広報誌「創新」といえば学内で知らない人はいないほどに浸透し、毎号各部署から多くの掲載希望をいただいて、このvol.50まで発行を続けています。しかしこれは当たり前のもではなく、最初に立ち上げた方、そのあとを引き継いできた方が繋いできた仕事の積み重ねの結果だと、この取材を通して強く感じました。

「広報誌」ひとつにも先達の築いた歴史や思いがあります。「創新」を通じて広く本学の魅力を発信することももちろん、この「創新」の発行そのものも、本学の歴史の一端として、これからもバトンを繋いでいきたいと思います。

今後も魅力ある広報誌として「創新」の発行を続けていくため、皆さまからのご意見・ご感想をお聞かせください。下記アンケートフォームより、ご回答をお願いいたします。回答期限: 2024年1月31日まで(回答は匿名で集計されます)

<https://forms.gle/meHd59AZNWg5y2UV6>





■過去5年分のバックナンバーは大学ウェブサイトで公開中です。是非ご覧ください。

表紙で振り返る「創新」

「創新」の表紙には、その時に旬な出来事や季節を感じられる写真を採用しています。

過去発行号の表紙を振り返り、現在にも受け継ぐキャンパスの様子や、制作に携わった職員の奮闘をご紹介します。



創新 VOL.1

PHOTO

滝子(山の畑)キャンパスにて撮影

創新創刊号の表紙は、滝子キャンパスの満開の桜と、その下で談笑する学生達のワンカットでした。撮影者の西澤さんはこの後、自ら専門の写真教室に通って撮影の腕を磨いたとのこと。この桜とベンチは今でも変わることなく、学生が憩う場所として、また3月～4月のシーズンには絶好の撮影スポットとして、滝子キャンパスを彩っています。



2023年3月撮影

2011



創新 VOL.7

PHOTO

田辺通キャンパス・新校舎外観完成

当時改築が進められていた田辺通キャンパスの新しい研究棟校舎を取り上げました。一面ガラス張りの目を引くデザインは、開棟から10年以上経過した今もキャンパスのシンボルです。また現在、滝子・田辺通キャンパスは、2027年度当初の完成に向けた再編整備計画が進行中です。詳しくは創新vol.49をご覧ください。過去の発行号と見比べると、少しずつ姿を変えていくキャンパスの様子に気づけることも見所のひとつです。

2012



創新 VOL.18

PHOTO

芸術工学部2年生制作庭園のなかの  
スモールスペース

北千種キャンパスには、芸術工学部の学生が製作したモニュメント作品が多く展示されています。完成した作品と笑顔の学生たちを高いところから撮影した1枚が表紙に選ばれました。

立体的で複雑な造形の全体像と制作した学生たちを綺麗に1枚に収めた構図は、実は試行錯誤の賜物でした。

西澤さん(撮影者):  
「苦労しましたが、完成した「創新」を見た学生たちが、とても喜んでくれて、自分も嬉しかったことを覚えています」

2015



創新 VOL.23

PHOTO

紅く色づき始めた  
滝子キャンパス

「創新」の表紙には季節感のある写真も多く採用されています。11月に発行されたvol.23は、秋らしく木々が色づき夕日に染まる山の畑キャンパスの写真が使われています。しかし実はこの年は色づきが遅く、また天気にも恵まなかったことで、5日間粘って締切日のぎりぎりに撮影できた1枚だったそう。ただ何気ない写真に見えても、意外と奇跡の1枚かもしれません。これからの「創新」表紙にもきっと裏の努力の跡が。注目してみてください。

2016

特集  
2

## 2年連続！名市大病院が 初期研修でフルマッチを達成！

2023年10月26日(木)、2023年度医師臨床研修マッチングの最終結果が発表され、名古屋市立大学病院は、募集定員37名に対してマッチ者数37名のフルマッチを達成し、昨年に続いて2年連続の100%達成となりました。

また、研修を受け入れている東部医療センター・西部医療センターでもフルマッチを達成しています。全国の大学病院での初期研修医数が減少しているなかで、本病院群における初期研修プログラム受験者数は順調に増加しています。

今後も瀬尾由広総合研修センター長のもと、質の高い研修プログラムを実施してまいります。



フルマッチを達成した総合研修センター教員と初期研修医での記念撮影

### 医師臨床研修マッチングとは

医師臨床研修マッチングは、2004年度に医師の臨床研修が義務化されたことに合わせて導入されたシステムで、臨床研修を受けようとする者(医学生等)と臨床研修を行う病院の研修プログラムを、お互いの希望を踏まえた上で、一定の規則に従いコンピュータにより組合せを決定します。

特集  
3

## 2連覇達成！日本経済新聞社の地域貢献度ランキングで 全国トップの評価！

2023年11月6日(月)発行の『日経グローバル』にて、「大学の地域貢献度に関する全国調査2023」の結果が発表され、総合ランキングにおいて全国トップとなり、2021年の調査に続き2連覇を果たしました。

### 本学の地域貢献活動の一例をご紹介します

2023年8月、名古屋市交通局との包括連携協定締結を記念したシンポジウムを開催し、市民とともに「生涯健康」について考えました。また、9月には本学が監修したウォーキングイベントやミニセミナーも実施しました。

総合大学としての強みを生かし、「健康」「子育て」「芸術」「経済」「歴史」など多彩なテーマで専門的な知識をわかりやすく解説する市民公開講座を開催し、生涯学習の場を提供しています。また、社会人や専門職人材を対象としたリカレント教育にも力をいれています。

### 「大学の地域貢献度に関する全国調査2023」とは

日経新聞により全国765校の国公私立大学を対象に実施されたアンケート調査で、2022年度の実績が評価されたものです。地域貢献のための組織や制度面の取り組みをみる「大学の組織・制度」、学生の地域への就職や住民向け講座開催などの実績をみる「学生・住民、教育制度・社会人教育」、企業、自治体との連携実績などをみる「企業・行政」、SDGsや国際化の取り組みに関する「SDGs・グローバル」の4分野で構成・評価され、ランキングとして発表されています。

国公立大学として国内最大級(約2,200床)となる5つの医学部附属病院を有し、高度急性期から慢性期まで各病院の特長を生かした医療を提供しています。2025年夏頃には救急災害医療センターが完成予定で、救急・災害医療の機能強化を進めています。



今後の展開として、「研究」と「国際」の分野を強化する予定です。研究力強化に向けた支援体制を整えてより高いレベルの研究成果を上げ、市民に知識・データとして還元することで地域貢献をしております。また、2026年9月にアジア・アジアパラ競技大会が愛知・名古屋で開催されることから、大会に本学もより深く関わることで、本学を含む地域の国際化を加速させたいと考えています。

最後に、地域貢献度ランキング全国1位という結果は、日頃よりご支援いただいている地域の皆さまと一緒に達成したものです。深く感謝申し上げますとともに、今後もより一層のご協力の程よろしくお願いたします。



撮影：畠中 和久氏

高等教育院  
なごや学研究センター



近世名古屋学 寄附講座教授  
千田 嘉博

### 「名古屋」への愛着や誇りを持てる学びを展開します

2023年9月より、高等教育院に所属する教授に着任し、「なごや学研究センター」の事業にも参画させていただくこととなりました千田嘉博と申します。文字史料が中心であった近世の名古屋の歴史を城郭考古学という見地から調査研究するとともに、研究成果を市民の皆さま等に発信することで、微力ながら名古屋市立大学の価値を高めるために活動してまいります。

名古屋市立大学のある瑞穂区は、中学・高校時代を過ごし、自分の人生の研究テーマとなる「お城」について興味を持つきっかけができた懐かしい場所であり、また、名古屋市は、大学卒業後に見晴台考古資料館で学芸員としてお世話になった経験もあることから、今回の着任にあたっては不思議なご縁を感じます。

さて、名古屋市立大学では「近世名古屋学」をテーマに教育・調査・研究を進めますが、学生教育については、全学部の学生が受講する「近世名古屋の歴史」を担当し、若い世代へ名古屋への興味はもちろん、「名古屋という土地が歴史的に見てどれほど素晴らしい場所なのか」といった郷土への愛着や誇りを持ってもらえるような授業を展開していこうと思っています。

また、これまで蓄積してきた教育研究成果や今後の調査研究で明らかになる新たな知見については、名古屋市民の皆さまにとどまらず、全国の皆さまへも還元していくことで、人生100年時代を謳歌し、楽しみながら「学びなおし」ができる機会を提供するとともに、名古屋市立大学の存在感や価値を高められるよう精力的に活動してまいりたいと考えています。

最後になりますが、前任校の奈良から故郷である名古屋へ戻り、教育・調査・研究ができる喜びを噛みしめながら、名古屋市立大学教授として「近世名古屋学」の調査研究に精進してまいりますので、ぜひご期待ください。



笑顔でお城をめぐる千田教授(写真は姫路城)



講演会の様子



医学研究科  
リハビリテーション医学



のじま いっぺい  
野 一平

医学研究科リハビリテーション医学分野の野一平と申します。2025年4月に開設構想中の医学部保健医療学科(仮称)リハビリテーション学専攻で教鞭をとる予定です。

リハビリテーションは、病気や怪我により日常生活が障害された方の心身の機能の改善を促し、自立した生活ができるように支援します。また、退院後の在宅での生活の支援や機能低下の予防などにも関わり、地域医療を支えています。リハビリテーション学専攻は、名東区のみらい光生病院横にキャンパスを構え、理学療法学コースと作業療法学コースを設置する予定です。本専攻では、今後の超高齢社会を見据え、チーム医療の中で主体的に活動できる医療人の育成を行っていきます。さらに、基礎から臨床までシームレスに研究実践することで、質の高い保健・医療の提供に少しでも寄与していきたいと考えています。

本専攻の特色は、医学部附属病院群における早期からの臨床実習と医学科教員による高度で専門的な基礎医学教育を受けられる学修体制です。今後、名古屋市も高齢化が進んでいきます。高齢者や障害のある方が自分らしく地域で生活することを支援できる医療人の育成を通じ、地域医療へ貢献いたします。また、将来的には大学院の設置により、さらに専門的な先端研究を実践することで、本邦におけるリハビリテーション医学を牽引していきたいと考えております。そして、既存の価値に囚われない新しい発想を基盤に、名古屋から世界に向けた情報発信を行っていく所存です。



リハビリテーション学専攻の実習イメージ



みらい光生病院外観

DATE 2023.10.15

## 【医学部】医学部創立80周年記念式典を開催しました

2023年10月15日(日)に、本学医学部の創立80周年を記念する式典を開催しました。会場の名古屋 Marriott アソシアホテルには、河村名古屋市長を始め、大村愛知県知事ほか多くのご臨席をいただき、本学医学部の節目にお祝いの言葉をいただきました。またその後、中日新聞社代表取締役の大島宇一郎氏にご登壇いただき、「名古屋市立大学医学部の将来への期待」と題した記念講演を行っていただきました。本学医学部は、昭和18年設置の名古屋市立女子高等医学専門学校を源流とし、設立以来、5,200名を超える卒業生を社会へと送り出し、地域の健康・福祉体制の向上、地域医療の水準を高めるとともに先進的な医療の発展に貢献してきました。この度の式典は、医学部の歴史や今後の展望を共有し、さらなる質の高い医療・教育・研究を推進していくための新たな一歩を踏み出す機会となりました。



挨拶をする高橋医学研究科長



式典会場の様子

DATE 2023.8.21/31/9.13

## 【産学官共創イノベーションセンター】

### 学生×企業 PBL(課題解決型)プログラムを開催しました

2023年8月21日(月)、8月31日(木)、9月13日(水)の3日間にわたり、ナゴヤイノベーションズガレッジとの共催にて経済学研究科の鶴飼宏成教授の指導の下、PBL(課題解決型)プログラムを行いました。企業の抱える課題について、その若手社員と学生がチームを組んで解決案を検討するプログラムであり、当日は株式会社桶庄、新東工業株式会社、トヨタ紡織株式会社、西日本電信電話株式会社の担当者に参加をいただきました。9月13日(水)に行われた最終報告会では現役の起業家の方々にもアドバイスをいただき、学生が課題解決のノウハウを学び、多角的な視点を身に付けるよい機会となりました。



DATE 2023.9.16

## 【大学院 医学研究科】市立大学寄附講座(こころの発達医学)・こころの発達診療研究センター開設記念シンポジウムを開催しました



基調講演の様子



シンポジウムの様子

2023年9月16日(土)、今年8月の「こころの発達医学寄附講座」および「こころの発達診療研究センター」開設を記念するシンポジウムを開催しました。「名古屋市と協働する発達障害児者への支援」をタイトルとして、第一部では寄附講座教授兼センター長の山田敦朗先生、寄附講座教授の永井幸代先生に基調講演をいただき、その後、名古屋市の子ども青少年局児童福祉センターの谷合弘子所長、教育委員会事務局子ども応援室主任総合援助職の阪口裕樹氏、障害者雇用支援センターの榊原康夫副所長にパネリストとして登壇いただいたのシンポジウムを行いました。講演・シンポジウムを通して、名古屋市における現状・課題を踏まえながら、発達障害児者への切れ目のない支援を目指して、名古屋市と本学が連携して行っていく取り組みについてお話しいただきました。当日は、非常に多くの皆さまにご参加いただき、このテーマへの関心の高さが伺えました。



## イベントシーズン到来!

### 2023年度大学祭・秋のオープンキャンパスを開催しました

秋のイベントシーズンを迎え、今年も本学の特徴である4キャンパスでの大学祭が行われました。2023年10月14日(土)・15日(日)の薬学祭からスタートし、川澄祭、芸工祭、そして11月11日(土)・12日(日)の市大祭と、約1か月間にわたり開催した本学のお祭りに、長い期間をかけて企画を準備した学生たちの熱気と、ご協力・ご参加いただいた地域の皆さまの活気とが合わさり、大盛況となりました。

また、同期間中には、秋のオープンキャンパスも各学部で開催され、多くの高校生・保護者の皆さまにご参加いただきました。10月29日(日)には、2025年4月に医学部に新設構想中の医療保健学科(仮称)リハビリテーション学専攻が初のオープンキャンパスを実施し、現高校1・2年生を中心とした参加者は、名市大の新たな学びの分野に興味津々の様子で、学科説明や模擬講義を受けていました。また、プログラムの1つであったリハビリテーション体験には参加してよかったとの声を多くいただきました。



大学祭の様子



オープンキャンパス会場の様子



DATE 2023.10.1

**〔附属病院群〕 臨床工学技士20周年記念式典を開催しました**

名古屋市立大学病院では、臨床工学技士を採用し、医療機器安全管理に従事し始めて今年で20周年を迎えました。このことを記念するとともに、本学の5附属病院間の連携を強化し、臨床工学技士の役割や未来を考えるため、2023年10月1日(日)、「名古屋市立大学臨床工学技士20周年記念式典」を開催しました。臨床工学技士が業務拡大を行い、歩んできた20年を振り返り、医師の働き方改革に伴うタスクシェア/シフトに根差した未来プランを考えるとともに、愛知県臨床工学技士会の神戸幸司理事長を招いての特別講演を行いました。

<臨床工学技士とは> 医師の指示のもと、生命維持管理装置等の医療機器の操作および保守点検を行うメディカルスタッフです。新型コロナウイルス感染症が蔓延した際には、呼吸状態が悪化した患者に使用する人工呼吸器等の医療機器の操作を行うなど活躍しています。



挨拶をする間瀬病院院長



DATE 2023.10.2

**〔西部医療センター〕**

**小児医療センターにレゴランド®・ジャパンからバディとレベッカが遊びに来ました！**



2023年10月2日(月)、西部医療センター内の小児医療センターに「レゴランド®」からバディとレベッカが遊びに来てくれました。名古屋市と包括連携協定を締結しているレゴランド®・ジャパン合同会社が、社会貢献活動の一環として今年度より取り組む「地域の子どもたちへ「遊び」と「学び」を通じて「げんき・えがお・ゆめ」を届ける取り組み」プロジェクトにご協力いただき、久しぶりに病棟でのイベント開催を実現することができました。当日を楽しみに待っていた子どもたちは、バディとレベッカと一緒に写真を撮り、レゴ®ブロックのプレゼントをもらい嬉しそうな様子。それを見守る保護者の皆さまや、病院スタッフにも笑顔があふれました。患児と保護者の皆さまに明るさと元気を届けてくださり、本当にありがとうございました！



**〔経済学部〕 岐阜県白川町・経済学部・株式会社コミュニティネットワークセンター 共同企画・実施**

**「共同講座」1年目の成果報告！発展する2年目につづく**

共同講座は、地域課題の解決を目指して、グループワークによる対策案の検討と企画提案を行う「事業構想編」と、提案内容の検証と新たな地域資源の発見を組み合わせる「フィールドワーク編」の2段階で構成されています。

特長は、産官学それぞれから参加した将来を担う『若者』による「リアリティある地域課題の克服」に向けた協働という点です。2023年4月から9月にかけて、学生・若手社員・若手職員が「メディアの活用(SNS、CATV網など)」「移住促進・観光ブランド化」「高齢者世帯・独居老人を見守る体制づくり」「地域産業の活性化・再生」のテーマに分かれてチームを組み、世代・異業種の違いを超えた対話と熟議による対策立案と、町長・社長・町民有志の方々へ提案を行いました。フィールドワークでは、対策の実効性を高めるための検証と、SNSを通じて岐阜県白川町の魅力発信に努めました。



←白川町フィールドワーク  
<農LAND=農を軸にした遊び場>を学ぶ！



白川町・経済学部・コミュニティネットワークセンター・町民によるテーマ別座談会→



DATE 2023.11.4

**〔人文社会学部〕 NCUサステナビリティ・ワークショップ2023が開催されました**

2023年11月4日(土)、山の畑キャンパスにて、地域の高校生と本学の学生が「SDGs(持続可能な開発目標)」について考えるNCUサステナビリティ・ワークショップ2023が開催されました。今年度は「住」をテーマに集まった高校生と大学生がグループに分かれて、「住から考える持続可能な都市 名古屋」について日頃の学びや研究をもとに話し合い、その結果を発表し合いました。参加者全員が「持続可能な社会の実現に向けて何が出来るのかを自らの問題として考えました。参加した高校生・大学生にとって、互いの学びや研究を共有する有意義なひとときとなりました。



高校生と大学生が共同でワークショップに取り組む様子



ワークショップの成果を発表  
参加者全員が「持続可能な都市名古屋」を考えました



DATE 2023.7.24-8.25

**〔医学部〕 〔薬学部〕 〔総合生命理学部〕 大学丸ごと研究室体験を開催しました**

2023年7月24日(月)～8月25日(金)にかけて、本学と名古屋市教育委員会との連携事業の一環として「大学丸ごと研究室体験～市立大学・市立高校 高大連携講座～」を開講しました。この講座は、夏季休業期間を利用し、医学部・薬学部・総合生命理学部の研究室において市立高校生のグループを1～4日間にわたり受け入れ、各研究室で専門分野の実験を体験できるものになっています。今年度は31講座を開講し、菊里・向陽・桜台・名東の各高校から合計146名の生徒が参加しました。参加した高校生からは「先生や学生と一緒に実験を進めるなかで、最新の研究に詳しく知ることが出来た」、「将来の進路を考えるにあたって参考になった」との声をいただきました。



医学部講座の様子



経済学部 人文社会学部 芸術工学部 データサイエンス学部

## NCUグレード・スキップ・チャレンジ2023を開講しました

2023年8月7日(月)～9月23日(土)にかけて、本学と名古屋市教育委員会との連携事業の一環として「NCUグレード・スキップ・チャレンジ2023」を開講しました。この企画は、市立高校の生徒が夏休みに高校から大学に飛び級(Grade Skip)して、経済学部・人文社会学部・芸術工学部・データサイエンス学部の調査・研究活動を体験するもので、最終日には生徒たちが研究成果の発表を行うことが特徴で、高大が連携し探究学習を実践しています。

今年度は、市立高校9校から計30名超の生徒が参加し、新設された「データサイエンス学部」で開講した2講座をはじめ、計6講座に分かれて調査・研究に取り組みました。また、最終日の発表会の様子が新聞紙面に取り上げられました。



人文社会学部講座の様子



9月30日に開催したセミナーの様子

大学院 看護学研究科

## なごや看護実践セミナーを開催しました

2023年9月～11月にかけて、看護保健医療福祉職者を対象に、看護実践セミナー5件を実施しました。現場で役立つスキルを身につけたい方が参加されました。セミナー終了後のアンケートには、「講義からグループワークがあり、自分の頭の中に意識づけを行うことができた」「具体的にどう伝えるのか、どう活用するのかというところまで説明して下さったのでイメージしやすく、内容も入りやすかった」などの声を聞くことができ、受講者にとって充実した学びの場となりました。

大学院 看護学研究科

## どうする看護研究「看護研究いろはの『ろ』、いろはの『は』」を開催しました

2023年10月21日(土)看護研究いろはの『ろ』、11月14日(火)看護研究いろはの『は』を実施しました。これから研究活動を始める看護保健医療福祉職者の方が参加され、セミナー終了後のアンケートには、「量的研究を何度か学んでいるが、先生の説明は分かりやすかったです」「看護研究初心者ですが、質的研究の進め方に関する講義や演習を通して質的研究への理解を深めることが出来ました」などの声を聞くことができました。受講者にとってこれからの研究活動に役立つ学びの場となりました。



看護研究いろはの『ろ』セミナーで説明をする看護学研究科の宮内義明准教授

大学院 人間文化研究科

## ようこそ大学へ!プロジェクトを開催しました

2023年8月8日(火)、名古屋市内の児童養護施設などで生活する子どもたちを大学へ招いて学習支援や進学への動機づけを目的とした大学体験企画「ようこそ大学へ!プロジェクト」を開催しました。名古屋市からの依頼で始まった本イベントも今年で11年目を迎え、ボランティアの学生たち協力のもと、今年も参加した子どもたちからは一日の体験を通して、楽しそうなお声を聞くことができました。



学生による企画を楽しむ様子

## 読売新聞中部支社連携事業 プレスリリース書き方講座を開催しました

2023年9月19日(火)・26日(火)の2日間、本学が包括連携協定を結んでいる読売新聞中部支社との連携事業として、大学院生向けのプレスリリース書き方講座を山の畑キャンパスのTAKI terialにて開催しました。読売新聞中部支社の支社長兼編集センター長の安藤弘樹氏を講師に迎えて、1日目のレクチャー内容をもとに2日目には実際にプレスリリースを書いてみる実践的なプログラムでした。伝わりやすい文章の書き方を始め、記事として取り上げられやすいプレスリリースのポイントなど、新聞社としての貴重なノウハウをご教示いただきました。参加した学生からの満足度も高く、これからの研究成果の発表機会などにぜひ生かしていきたいとの声が聞かれました。



講座の様子



講習会の様子

## 今年で11年目! 名市大「BLS講習会」を開催しました

2023年8月1日(火)・8日(火)に、本学の学生や教職員を対象に、AEDの使用法や人工呼吸の実践方法などのBLS(一次救命処置)を学ぶ「BLS講習会」を開催しました。東部医療センター救命救急センター長の松嶋麻子教授が講師を、救命救急クラブMeLSCの学生がインストラクターを務め、2日間で学生49名、教職員30名が受講しました。受講者からは「実際にこのような場面があれば、勇気を出して救助を行いたい」、「毎年の開催を続けてほしい」等の声をいただき大変好評でした。いざという時に一人でも多くの命を救えるよう、今後も名市大ではBLSの普及に努めていきます。



学生や教職員が協力して清掃しました

## 開学記念日一斉清掃を行いました

2023年10月18日(水)に北千種、20日(金)に桜山と田辺通、27日(金)に滝子の各キャンパスで開学記念日一斉清掃を行いました。2015年度に開学65周年記念事業として開学記念日に実施した清掃を継承するもので、毎年1回、学生組織が力を合わせてキャンパスをきれいにし、「おもてなし」の心で各大学祭を迎えています。新型コロナウイルス感染症の影響により、この数年は規模を縮小して実施しましたが、今年度は教職員や同窓会を含む約300人が一斉清掃に参加し、美しいキャンパスとなるように心を込めて掃き掃除やごみ拾い、窓拭きを行いました。



# 国際交流

INTERNATIONAL ↔ EXCHANGE



視察団訪問の際に撮影した記念写真

## プリンスオブソクラ大学(タイ)から視察団が訪問されました

2023年10月26日(木)、27日(金)に本学の大学間交流協定校(海外拠点設置合意校)の一つであるタイのプリンスオブソクラ大学から、産婦人科教授、准教授を含む10名の視察団が名市大病院の産科婦人科を訪問されました。2日間で当院の特色である不育症研究センター、総合周産期センター、臨床シュミレーションセンター、NICU、喜谷記念がん治療センター、出生前診断の外来やロボット手術等を見学していただきました。日本の周産期医療システムや専門医育成システムについて双方から活発な意見交換が行われ、今後の国際的な共同研究推進に繋がる有意義な時間となりました。

## 大学院 看護学研究科 看護学部生がハルリム大学(韓国)短期看護研修に派遣されました

2023年9月3日(日)から10日(日)にかけて、韓国のハルリム大学看護学部での短期看護研修を行いました。2019年以来4年ぶりとなる本研修には看護学部2~4年生、計5名が参加しました。ハルリム大学での専門科目の講義、シミュレーション演習に現地学生とともに聴講しました。現地の学生と教員のアテンドのもと、春川市とソウル市のハルリム大学附属病院2施設、高齢者ケア施設、産後院などの施設に出向き韓国の医療看護制度について学びました。ソウル市の病院では働くスタッフのセクションごとの最先端のセキュリティ認証システムや、NICUにおける患児に直面できない家族に向けたアルバムの作成など細やかな看護の実践について学びを深めることができました。滞在中は、ハルリム大学看護学部生との交流も行き、充実した8日間のプログラムを無事終了しました。



ハルリム大学附属病院の研修での記念撮影

## 大学院 人間文化研究科 ヴィサヤ州立大学(フィリピン)との大学間交流協定を締結しました



教員養成学部の教員との記念撮影

2023年7月、本学は、フィリピンのヴィサヤ州立大学と大学間交流協定を締結しました。この協定は、人間文化研究科の曾我幸代准教授と先方教員のFrank Britz V. Cadavis氏が研究交流を行ってきたことにより実現しました。曾我准教授は、8月に先方より招へいを受け、トロサキャンパスを訪問しました。教員養成学部の教員や学生を対象にSDGsと教育の重要性についての講義や有志学生約50名にSDGsワークショップを行いました。滞在中にはメインキャンパスに出向き、国際交流センター長をはじめとして、教育担当の副学長などを表敬訪問をしました。今後の連携について、学生交流ができるようにしていくこと、プロジェクトベースの研究の連携を図っていくことを確認しました。

## ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学(フランス)と拠点設置合意を締結しました

2023年9月19日(火)、本学の郡健二郎理事長、横山清子国際担当副学長、医学研究科の安井孝周教授がフランス・ランス市を訪問し、ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学(URCA)との間で拠点合意書を締結しました。URCAと本学とは2018年に大学間交流協定を締結し、昨年12月に名古屋市の河村たかし市長が姉妹都市である同市を訪問した際、本学よりの親書をURCAに手交して更なる交流の深化をはかることにしておりました。名古屋市立大学にとってはトルコ・韓国・フィリピン・タイ・ドイツ・インドネシアに続き、7校目の拠点校設置になります。今後同大学との間で学術や学生交流を積極的に進めていきます。



拠点合意書に署名する様子



講座に参加する様子

## 令和5年度前期名古屋市瑞穂生涯学習センター講座に本学留学生が参加しました

2023年9月28日(木)、名古屋市瑞穂生涯学習センターが主催する講座「みんな同じ空の下：外国の人とふれあうことで、多文化共生について学びましょう」に本学の留学生7名が参加しました。この講座はより国際的な時代を迎える今後に向けて、ともに生きていくことの大切さについて考えるきっかけとなることを目的と開催され、全4回の開催日のうち1回を本学が担当しました。講座では留学生7名がそれぞれの出身国のあいさつや伝統行事、ゲーム、食事などの文化について紹介し、質問に回答しながら市民の参加者の方との会話を楽しみ、交流を深めました。



## 学生の活躍



来場者に研究内容を説明する薬学部 田口さん



左から林SDGsセンター長、人文社会学部4年殿畑さん、小堀さん、早川さん、河内さん、曾我准教授

SDGsセンター 薬学部 人文社会学部

## SDGs AICHI EXPOに参加しました

本学は2023年10月5日(木)～7日(土)にかけて開催されたSDGs AICHI EXPOに参加しました。SDGs AICHI EXPOは3日間に渡って開催されるイベントで、本学のブースではSDGsセンターとして本学のSDGsに関する活動の内容を来場者に紹介すると共に、人文社会学部の曾我准教授ゼミの学生5名がSDGs達成のためにできることを来場者と共に考えたり、薬学部の臨床薬学分野(鈴木匡教授研究室)の学生が自身の研究内容である「医薬品PTPシートのリサイクル」について来場者に説明するなど、ブース出展を盛り上げてくれました!

### 田口りかさん(薬学部)コメント

多くの方がお薬シートのリサイクルについて興味を示してくださいました。医療従事者だけでなく一般の方も興味を持ってくださっている話題であることを実感し、やりがいを感じました。このイベントが一人一人が参加できるリサイクル活動へ広がるきっかけとなれば良いなと思います。

### 河内翠さん(人文社会学部)コメント

SDGs探検ノートは、子どもたちがSDGsを生活の中で実践する際に役立つノートです。身の回りを探検して発見したことをメモするページと、その発見を自分なりに分析してリーダーチャートにまとめるページで構成されています。ブース出展では、さまざまな分野に関わる方との出会いがあり、さらなる活用の可能性を感じました。

経済学部 産学連携プロジェクト

## Student Innovation Collegeにおける商品化活動

経済学部 山本奈央ゼミ4年生チーム「かやっかーず」(高間駿さん、藤原未彩さん、村下経征さん、山崎こなつさん)が、Student Innovation College (Sカレ)における商品化活動(連携企業:田村駒株式会社、テーマ:アウトドア商品PR企画)の一環で、2023年9月9日(土)～10日(日)に山梨県で行われたキャンパイベント「Folbot Meeting」にてイベント企画を行いました。また、10月14日(土)にはSカレ総合優勝戦(オンライン)で成果報告をしました。

### 「かやっかーず」(経済学部)コメント

こんにちは!かやっかーずです。今回私たちは、田村駒株式会社様と協力して「Folbot Meeting」にてPRイベントの企画を行いました。富士山と朝日を眺めながらカヤックとサップができる非日常体験!多くの企画を通して、カヤックをお持ちの方や、興味がある方との交流の機会を作り、大人も子どもも動物も、みんなが楽しめるイベントになりました。カヤックの魅力を参加者の皆さまにしっかりと伝えることができました!



FOLBOT MEETINGの様子

SDGsセンター 薬学部 経済学部

## 日中韓三カ国環境大臣会合 ユースフォーラムにて名市大生が 英語で取組発表

2023年11月3日(祝)、第24回日中韓三カ国環境大臣会合ユースフォーラムにて、各国ユースと地元学生との交流の一環として、本学経済学部の森山さん、松野さん、薬学部の田口さんが自身の環境保護に関する取り組みについてプレゼンテーションを行いました。発表は英語により行われ、各国ユースや関係者の関心を集めました。

### 〈プレゼン内容〉

- 「次世代エネルギーワークショップ」  
経済学部2年 森山 瑞穂さん
- 「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」  
経済学部3年 松野 百花さん
- 「医薬品PTPシートはリサイクルできるのか?」  
薬学部6年 田口りかさん(当日はビデオ録画にて参加)



発表中の森山さん(右)と松野さん(左)

芸術工学部

## 山野楽器主催学生ジャズコンテストで ソリスト賞を受賞しました

芸術工学部3年生の中村樹生さん(「Blue Stars Jazz Orchestra」所属)が、山野楽器主催の第54回ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテストでソリスト賞(ユーフォニアム)を受賞しました。

※「Blue Stars Jazz Orchestra」のメンバーは中部地区の複数の大学の学生で構成されています。

### 中村樹生さん(芸術工学部)コメント

大学生になった頃からずっと目標の一つにしていた賞を取ることができてとても嬉しく思います。この経験を通して、諦めずにひたすら目的を達成しようという姿勢が何よりも大切だなと感じました。この賞は一つの通過点に過ぎないのでこれからも練習に励み、いずれ世界で活躍するような人になって音楽がより身近にある社会にしたいです。



演奏の様子  
演奏曲はTigran Hamasyan作曲の「The Grid」



表彰式の様子  
ヤマハ株式会社様以上の副賞としてデジタルカックスをいただきました



学生の受賞

※学年は受賞時

大学院 経済学研究科

日本集中治療医学会関西支部  
第7回学術集会 優秀演題奨励賞

<演題>小児病院の収益性におけるPICUの影響分析  
<受賞者>経済学研究科 博士前期課程2年 宮津 光範 さん



大学院 芸術工学研究科

日本情報教育学会  
第1回 AIプロンプトグランプリ 大賞

<テーマ>ツール(アプリケーションやソフトウェアやサービスの)の操作手順  
<受賞者>芸術工学研究科修士課程2年 桂田 千穂 さん



大学院 芸術工学研究科

第70回 日本デザイン学会 春期研究発表大会 グッドプレゼンテーション賞

<テーマ>仏壇を後世に伝承するプロダクトの研究開発  
<受賞者>芸術工学研究科修士課程2年 井倉 芳弥 さん



名市大発高インパクト論文表彰／国際共著論文プラス1運動表彰／トップ1%論文表彰



研究力の強化および国際的な評価の上昇に関する機運を高め、世界大学ランキングの上昇を目指すことを目的に表彰するものです。

■名市大発高インパクト論文表彰

特に影響の高い論文を著した研究者を表彰

- 医学研究科 准教授 鄭 且均
- 医学研究科 講師 森本 守
- 薬学研究科 准教授 岩尾 岳洋
- 経済学研究科 教授 湯之上 英雄
- 人間文化研究科 准教授 Andrea Castiglioni
- 芸術工学研究科 教授 松本 貴裕
- 理学研究科 准教授 三浦 均
- データサイエンス学部 教授 上出 哲広

■国際共著論文プラス1運動表彰

国際共著論文数で特に顕著な業績を取った研究者を表彰

- 医学研究科 講師 鈴木 俊光
- 医学研究科 准教授 岡田 淳志
- 薬学研究科 准教授 矢木 宏和
- 人間文化研究科 教授 中川 敦子
- 芸術工学研究科 教授 青木 孝義
- 看護学研究科 助教 城川 絵理子
- 理学研究科 准教授 田中 蒙
- データサイエンス学部 教授 能勢 正仁

■トップ1%論文表彰

出版年別のFWCI(当該論文が類似の論文と比較して、どの程度引用されているかを示す数値)が世界全体の上位1%に含まれる論文の著者のうち、特に顕著な業績を取った研究者を表彰

- 医学研究科 助教 菊池 祥平
- 理学研究科 准教授 三浦 均
- 医学研究科 教授 森田 明理
- 医学研究科 特任助教 松本 真実
- 医学研究科 教授 谷田 諭史



令和5年度 理事長表彰

本学で教育、研究、社会貢献、管理・運営、診療の分野で顕著な業績を挙げ、本学の発展に尽くされた方を表彰するものです。

■教育

芸術工学研究科 准教授 影山 友章

■研究A

薬学研究科 教授 山村 寿男  
経済学研究科 教授 藤田 菜々子

■研究B

医学研究科 准教授 伊藤 由起

■社会貢献

薬学研究科 教授 松永 民秀  
理学研究科 教授 熊澤 慶伯

■管理・運営

薬学研究科 教授 林 秀敏  
芸術工学研究科 教授 水野 みか子  
看護学研究科 教授 薊 隆文


■診療

医学研究科 講師 内木 拓  
医学研究科 教授(診療担当) 永谷 祐子 (東部医療センター)  
医学研究科 教授(診療担当) 荻野 浩幸 (西部医療センター)



## イベント参加者募集!

名古屋市立大学が主催するさまざまなイベントの情報をお届けします。ぜひご参加ください。

開催日	内容	時間・場所・費用など	申込方法
2.17 SAT	<b>なごや看護生涯学習公開講演会</b> テーマ:『しびれている身体で生きる』から学ぶ 現象学的研究成果と看護ケアイノベーション 講演者: 淑徳大学 坂井 志織 准教授	13:30~15:00 名古屋市立大学 さくら講堂 ※Zoomによるオンライン併用開催 費用: <b>1,000円</b> 対象者: 看護職者、保健医療福祉関係者	<申込> メール、名古屋市電子申請 <問い合わせ先> TEL: 052-853-8042 <申込締切>2月5日  詳細はこちら↑
2.18 SUN	<b>名古屋市立大学交流会 令和5年度 総会・講演会・懇親会</b> 講演会講師: 中京テレビアナウンサー 恩田 千佐子 氏 テーマ:『アナウンサー生活34年目。今、伝えられること』	開場 14:30 総会・講演会 15:00~17:00 懇親会 17:00~19:00 名古屋マリオットアソシアホテル 費用: <b>10,000円</b> (懇親会費) ※現役学生・2022年度卒業生は無料(社会人の大学院生を除く) 対象: 同窓生、現・旧教職員、学生など 本学関係者	交流会HP、メール、またはFAXにてお申し込みください。 交流会HP: <a href="http://www.koryukai.jp/">http://www.koryukai.jp/</a> メール: <a href="mailto:koryukai@sec.nagoya-cu.ac.jp">koryukai@sec.nagoya-cu.ac.jp</a> FAX: 052-841-6201 申込期限: 1月31日 ※応募者多数の場合、期限内に受付終了となる場合があります。
3.24 SUN	<b>なごや生物多様性シンポジウム 2024(仮称)</b>	13:00~17:00 田辺通キャンパス 宮田専治記念ホール 費用: <b>無料</b>	詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。 <a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/">https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/</a> ※2024年2月頃に詳細を公開予定

**PRIZE 受賞**

※受賞期間: 2023年6月~2023年9月頃 ※研究科・学部ごと、受賞日順に掲載





**■医学研究科**

**FIGO Women's Awards 2023**

<受賞者>  
医学研究科 産科婦人科学分野 教授 杉浦 真弓(写真右)



FIGO Women's Awards 2023  
産婦人科学と産科学の分野で国際的または国内的に科学の発展を促進するために特別な貢献をした女性医療専門家に送られる名誉ある賞です。この賞は、女性、母親、子供たちのためにより良い医療を提供するための非凡な仕事をを行った女性へ送られます。

**■経済学研究科**

**日本行動計量学会 2023年度 肥田野直・水野欽司賞(奨励賞)**

<受賞者>  
経済学研究科 経営学専攻 准教授 竹内 真登



**第8回(2023年度) 進化経済学会賞**

<受賞者>  
経済学研究科 経済学専攻 教授 藤田 菜々子



**■データサイエンス学部**

**第16回 ITヘルスケア学会 年次学術大会 研究奨励賞**

<演題>  
無人化施工オペレーターのスマートデバイスによるHRM

<受賞者>  
データサイエンス学部 保健医療情報系 教授 児玉 耕太



**「大学スマホ・サイト ユーザビリティ調査2023-2024」で全国第5位の評価をいただきました**

株式会社日経BPコンサルティングが、使いやすさや実用性の観点から大学のスマートフォン・サイトを評価する「大学スマホ・サイトユーザビリティ調査2023-2024」を実施し、本学が全国第5位の評価をいただきました。大学スマホ・サイトユーザビリティ調査は、株式会社日経BPコンサルティングが大学サイトを8つの診断指標によりスコア化し診断する調査です。対象の大学サイトは、国立・公立・私立の266校です。今後も、本学では誰もが使いやすいウェブサイトを目指してまいります。(総務部広報室)

**寄附顕彰**

**大学振興基金**

■個人

10万円以上 鬼頭 順子 様  
1万円以上 小汐 勝己 様  
5千円以上 梶原 正博 様  
非公表 浅沼 将生 様、朝日 一博 様、岡林 秀樹 様、鬼頭 良彰 様

■団体

5万円以上 読売新聞東京本社  
教育ネットワーク事務局長 東 武雄 様  
1万円以上 特定非営利活動法人国際倶楽部  
理事長 松岡 亜継子 様

**名市大生みらい応援基金**

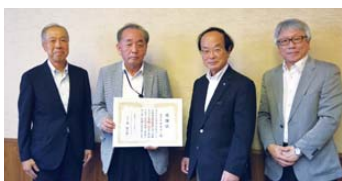
■個人

非公表 浅沼 将生 様、川端 禎彦 様、樋澤 吉彦 様

※五十音順。2023年7月1日から9月30日までに寄附をいただき、公表に同意された方。  
※インターネットからお申込みいただいた方につきましては、クレジットカード会社または決済代行会社から本学へ入金された日が上記期間に該当する方。  
※古本基金により寄附をいただいた方につきましては、連携会社から本学へ入金された日が上記期間に該当する方。

**感謝状贈呈式が行われました**

今年6月、本学の「名市大生みらい応援基金」に対して株式会社ナオツ一様より多額のご寄附をいただきました。そのご厚意に対し、郡理事長から感謝状が贈呈されました。



贈呈式での記念撮影

**【SDGsのアイコン(1~17のGOAL)】**

SDGsとは「Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標」の略称で、17のGOALが設定されています。本学もSDGs達成に向けた活動を推進しているため、関連するGOALのアイコンを各記事に表示しています。



**募集中!**

広報誌「創新」のご意見・ご感想などをぜひ総務部 広報室までお寄せください!

▶▶▶ E-mail : [ncu\\_public@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:ncu_public@sec.nagoya-cu.ac.jp)